

## 会議録

会議の名称	平成23年度第1回 西東京市廃棄物減量等推進審議会
開催日時	平成23年7月27日（水曜日） 13時55分から16時20分まで
開催場所	エコプラザ西東京講座室1・2
出席者	委員：紺野委員、下田委員、山谷委員、三澤委員、石井委員、笠原委員、本橋委員、内藤委員、利光委員、斉藤委員、高橋委員、一方井委員、鹿島委員、小林委員、竹村委員（全15名） 事務局：坂口市長、金谷部長、坂本課長、岡本係長、都築主査、小暮主任、高橋係長、三村統括技能長
議題	(1) 会長・副会長の選出 (2) 諮問及び趣旨説明 (3) 審議会の運営方法について (4) 西東京市廃棄物行政の現状と課題
会議資料の名称	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西東京市廃棄物の処理及び再利用に関する条例・施行規則</li> <li>・西東京市廃棄物減量等推進審議会委員名簿・事務局名簿</li> <li>・西東京市市民参加条例・施行規則</li> <li>・西東京市廃棄物減量等推進審議会傍聴要領（案）</li> <li>・審議会審議日程（案）</li> <li>・平成19年度審議会答申「西東京市廃棄物行政に関する施策について」</li> <li>・西東京市のごみ処理の流れ</li> <li>・西東京市ごみ量の推移（平成18～22年度）</li> <li>・西東京市一般廃棄物処理基本計画（平成19年度版）</li> <li>・西東京市総合計画概要（後期基本計画）</li> <li>・西東京市環境基本計画概要版</li> <li>・柳泉園組合概要</li> <li>・市民マップ</li> </ul>
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
1. 開会  2. 委嘱状交付 市長より、委員へ委嘱状交付  3. 市長挨拶  4. 委員および事務局職員の自己紹介	

## 5. 議事

### (1) 会長・副会長の選出

会長：山谷委員

副会長：一方井委員

に決定した。

### (2) 諮問及び趣旨説明

市長から会長に諮問

事務局より諮問事項の趣旨等説明

### (3) 審議会の運営方法について

事務局より説明

会議録作成方法、傍聴要領を決定

### (4) 西東京市廃棄物行政の現状と課題

事務局より説明

#### ○竹村委員：

現行計画が前倒しで目標を達成した理由は。

#### ○山谷会長および事務局：

有料化、プラスチックの分別収集、戸別収集の3事業による効果が出た。さらなる減量化が今後の課題となる。

#### ○本橋委員：

グリーンプラザひばりが丘南の大型生ごみ処理機の効果はどうか。

#### ○事務局：

故障、部品調達が困難、農家で使う品質に達しない等の理由から現在撤去している。大型生ごみ処理機を用いた生ごみ堆肥化については、コスト面、管理面で十分に検討する必要がある。

#### ○一方井副会長：

武蔵野市桜堤団地で行っている堆肥化事業の現況はどうか。

#### ○事務局：

現在も事業が行われている。自治会がしっかり異物の混入防止について管理している。自らできた堆肥を使うのであればうまくいくが、堆肥の利用者が異なると難しい。需要と供給のバランスを踏まえた事業規模の検討が必要である。

#### ○本橋委員：

家庭での生ごみ処理はうまくいっているのか。

○事務局：

ダンボールコンポストを推進しており、市の講座も好評である。

○本橋委員：

生ごみ処理機への補助は予定した基数に達しているか。

○事務局：

5割に達していない。

○本橋委員：

マンション等でも生ごみ堆肥化を普及するようにできないか。

○山谷会長：

集合住宅での堆肥化については、管理体制の構築、機械を置く場所の確保（臭気の問題）、堆肥の利用先の確保、関係者の合意形成等の面で導入がなかなか困難である。ダンボールコンポストは、取り組み易い。

○事務局：

生ごみ処理機の助成件数は減少している。ダンボールコンポストは温度管理が難しい。ごみの中では可燃ごみが最も多く、その中でも生ごみが多く、都市部では生ごみ対策が今後の焦点になりつつある。

○高橋委員：

有料化実施後、市民の意識の変化はあるか。

○事務局：

アンケートを実施しており、それに基づく審議会も実施しているので次回報告する。可燃ごみに対する意識は高まった。プラスチックについても意識は高まったが、コストが高いとの意見があったため、それらを踏まえ指定袋の手数料の改定を行った。

○高橋委員：

集合住宅の排出方法にマナー違反が多い。集合住宅と戸建住宅の意識の違いはあるか。

○事務局：

クロス集計の有無を確認する。

○高橋委員：

モデル地区を設け、対策を講じてはどうか。

○山谷会長：

西東京市では集合住宅においてフック式を導入しており改善が見られる。

○事務局：

10世帯～20世帯程度の集合住宅にフック式（部屋番号を示したフックに戸別排出する方式）を推奨している。

○本橋委員：

マンションでは分別が守られていない場合、管理人が苦勞して分別しているケースがある。分別が徹底されている所では市が何らかの補助をする等しても良いのではないか。

○山谷会長：

補助をしているケースもあるので現実的な提案と思われる。

○石井委員：

出たごみに対してのみではなく、ごみを出さない取り組みについても議論すべきである。

○山谷会長：

発生抑制の対策では、マイバッグの取り組みが重要である。

○石井委員：

意識のある人とない人の取り組みの差が大きい。啓発を進め、利便性だけを追求しないライフスタイルへの変換を図るべきである。

○利光委員：

ふれあい収集について、ごみを出せないお宅へはうかがってごみを出してくれるのか。

○事務局：

障害等を考慮して支援している。（安否確認もあわせて行っている。）

○利光委員：

分別等をする気はあるができない方もいる。そうした方への支援、広報活動が必要である。

○本橋委員：

学校をからめた方（子供たち、その親たちを含める）が、例えば生ごみリサイクル等進めやすいのではないか。

○事務局：

学校給食については、現在、子供たちに協力してもらって生ごみ堆肥化を行っている。

○本橋委員：

子供たちだけでなく、親も含めた取り組みとして生ごみを持ち寄ってリサイクルする手法もあるのではないかと。生ごみを削減した効果をCO2に換算してどれだけ削減できたか等を公表すれば、より啓発が進む。

○事務局：

夏休みにダンボールコンポストの講座を開いた際、子供が興味を示すと親も一緒になって興味をもつ傾向があった。

○内藤委員：

レジ袋有料化について山梨県、茨城県、栃木県で実施されている。こうした県では、80パーセントのレジ袋辞退率になっている。やっていない所は25パーセント程度の辞退率となっており、有料化の効果は高い。ただし、個別の自治体でやると他の自治体へお客が行ってしまうので、都単位で実施する必要がある。

○鹿島委員：

有料化導入時は厳格に分別をしていたが、最近は慣れてしまったのかやや意識が低下している。三鷹市で行われたスポーツごみ拾いに参加した際、各市のごみの分別が違っている事に戸惑った。ごみ教育が今後の取り組みの課題になる。子供のうちからきちんと教えていくことが重要である。柳泉園組合から二ツ塚最終処分場までを見学させることも効果があるのではないかと。

○紺野委員：

集団回収の団体数と回収量の推移を教えてください。行政回収をストップする所もあるが市はどう考えるか。

○山谷会長：

行政収集と集団回収の中間的な、例えば学区回収等も考慮してはどうか。

○鹿島委員：

ごみ拾いをすると、そのごみを捨てる場所がないので困っている。そのため、気づいても拾えない。良い方法を考えてほしい。

○一方井副会長：

公園で拾ったごみも同様で、拾った人が自己負担で処理している。

○山谷会長：

それは地域ごとの取り組みとしての課題である。

○三澤委員：

自治体ごとに分別の違いがある。子供の教育をする時に困る。各自治体で共通事項として取り組むべきである。

○山谷会長：

有料化等は自治体の事情で異なってくる。多摩地域は、最終処分場が逼迫している共通の課題があった。

○三澤委員：

大学でもコンポストに取り組んでいたが、分別（塩分が入る）の点で問題がある。学校等でそうした取り組みをしていくことも重要と考える。

(5) 今後の審議の進め方について

第2回審議会 8月22日（月曜日）午後2時～

第3回審議会 9月29日（木曜日）午後2時～

第4回審議会 10月27日（木曜日）午前10時～

第5回審議会 11月28日（月曜日）午後2時～

第6回審議会 12月22日（木曜日）午前10時～

に決定した。

6. 閉会